

宮代町立小中学校の適正配置及び通学区域の編成等に関する審議会

第5回会議 会議録

開催日時	平成26年1月27日 午前9時30分～11時45分				会場	宮代町役場 202 会議室					
委員出席状況											
	氏名	出欠		氏名	出欠		氏名	出欠		氏名	出欠
1	野口 昌宏	出席	6	飯山 知美	出席	11	山田信夫	出席	16	上田 悟	欠席
2	松本 順子	出席	7	平井 紀子	出席	12	大塚 健嗣	欠席	17	高田 祐司	出席
3	上野 雅子	出席	8	唐沢捷一	欠席	13	小暮 滋	出席	18	鶴見 城二	出席
4	蛭間 和彦	欠席	9	高柳英雄	出席	14	船橋 昭一	出席	19	宮部 達夫	出席
5	鈴木 保弘	出席	10	山内靖子	出席	15	和井田節子	出席			
事務局											
教育長		吉羽秀男 /		教育推進課長		渡邊和夫					
学校教育室長		瀬田 浩									
教育総務室長		井上正己 /		主査		石井 栄 /		主任 元井真知子			
会議次第											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. あいさつ 3. 議 題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 視察研修報告について (2) 宮代町の教育の未来を考える (3) 意識調査の実施について (4) その他 4. 質 疑 5. 閉 会 											

1. 開 会

○船橋会長 皆様、おはようございます。

大寒になりました、きのうは本物の西風が吹きまして。今年はどうも少ないように思いますが、どうぞお体にお気をつけいただきたいと思います。今日も早朝からご出席いただきまして、3人ほど到着がおくれておりますが、後ほどお見えになるということですので、始めさせていただきます。今回は第5回目の宮代町立小中学校の適正配置及び通学区の編成等に関する審議会ということで、また長丁場になりますが、何とぞよろしく願いいたします。

それでは、吉羽教育長よりご挨拶をお願いいたします。

2. あいさつ

○吉羽教育長 おはようございます。

第5回審議会に当たりまして、早朝から、また寒い中、ご多用の中、お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。今、学校関係ではちょっとインフルエンザがはやっております、学級閉鎖をしているところもちょっと幾つか見られる状況でございます。また、社会的にはノロウイルス等の報道もございまして、ちょっと心配しているところもございます。

そのような中ですが、昨年11月には研修視察ということで、多くの委員の皆様方にはご参加いただきました。大変有意義な研修であったというふうに思っております。

きょうは、その視察研修等の報告も含めて、また皆様方にいろいろご協議をいただきます。どうぞよろしく願いいたします。

3. 議 題 / 4. 質 疑

○船橋会長 それでは、ご挨拶を頂戴しましたので、早速議事に入りたいと思います。

きょうは、資料を3点用意しまして、議事のほうは3つございます。11月19日に行いました視察研修、それから、ワーキンググループの学校教育の話し合いの結果のご報告、それから来月実施とお考えのアンケートの意識調査の実施について、この3つをお題にしまして、進めたいと思います。

初めに、事務局のほうにお願いをいたします。1番目の視察研修報告、お願いいたします。

○井上室長 では、説明前に資料を確認させてください。

お配りした資料は、まず今日の5回会議という次第が載っているレジュメです。それから、資料1は視察の報告書、資料2は本日お配りしましたが、ワーキンググループで今検討している、検討過程のもので、最終決定ではないです。合わせまして、昨年12月の第2回ワーキンググループ会議で使用したプレゼン資料をお配りしています。それから資料3が意識調査の骨格、最後に審議会広報といたしまして、広報のワーキンググループで作成いただきました11月19日の視察の広報です。こちらは今、町のホームページを通じて公開をしているところです。以上、よろしいでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

(1) 視察研修報告について

○井上室長 では、説明いたします。お手元の資料1をご用意願います。視察に行きましてから約2カ月たったわけです。参加いただいた方、お疲れ様でした。また、参加いただけなかった方は、今回この中でお話が聞ければと思います。今回、視察の報告書を作成させていただいています。

昨年11月19日、茨城県の稲敷市、それから牛久市に行っていました。

資料をお開きいただきますと、それぞれの位置関係がごらんいただけるかと思いますが、今回の視察の趣旨は、1点目は、実際に学校の統合再編に取り組んだ事例として稲敷市、それから、学校施設を地域に向けて開放している、そしてさらに学校校舎にいろんな機能といいますか、施設、設備を設けているということで、茨城県の牛久市に行っていました。

まず、さらに開いて1ページ目です。

まず、稲敷市ですが、これも既に説明いただいた内容ですが、今回再編に取り組んだ経緯というのは、子どもの数が減っている点、これによるいろいろな教育上の課題、そしてハード面では耐震化、この3点があったかと思います。こうしたことを受けて、小学校の適正規模として12から18学級というのを1つ目安にして答申がなされて、適正配置に取り組んだという説明を受けてまいりました。その計画が2ページにある計画です。

今回視察したのは、上から2つ目の新利根地区、これは今年の4月に新しい新設校が開校する運びとなっております、その開校までの流れというのが3ページ、4ページにまとめられています。

私どもはこの審議会ですが、稲敷市では「適正配置検討委員会」といったものが設置され、さまざまに議論が行われ、計画がつくられ、地元説明を行って工事という運びになったと説明をいただきました。

詳細は資料に代えさせていただき、資料の5ページに移らせていただきますが、こちらは新しく学校ができるわけですから、どんな取り組みをしたかという点がありました。各学校に共同で行うような行事をして、児童生徒、保護者の交流を図りながら統合に向けて進めてきたということ。それから、実際に、先の話ですけれども、こういったことを行うためにはいろいろな人の力が必要だということを改めて実感しました。

また、稲敷市の場合は、非常に合併により市のエリアが広がっていたため、スクールバスを運行させたという説明も聞いてきたかと思います。それが6ページです。

特に印象的だったのは、7ページになりますが、当日稲敷市では教育長さんに同席いただきまして、「これから検討されるには」ということで幾つかアドバイスをいただいています。それをここに列挙させていただきましたが、特に印象的だったのは、やはり地域に対する、それから児童生徒の保護者に対するいろんな場面での丁寧な説明、熱心な説明ということを今後求められていくということを認識した視察となりました。

続いて、8ページですが、牛久市です。

牛久市のこの場所というのは、かつてつくば博が行われた万博駅の跡周辺とうかがいました。万博の跡を住宅地として開発が行われて、このエリアというのは今人口が非常に増加している地域だということです。ということで新校がオープンしたわけですが、その新校設置に当たっているような工夫が行われていることが確認できました。

1枚目の写真をごらんいただくと、どこことなく宮代町役場に似ている気がしますが、建設に当たって

は実際に宮代町の役場に視察に見えたと聞きました。木をふんだんに使っているというところで視察に見えたそうです。

まず木を使っているという点が1つの特徴、それから、太陽光発電も導入、校庭は芝生化でした。芝生化の校庭はメンテナンスが結構大変だと思いますが、この日はたいへん暖かくて、子供たちが伸び伸びと遊んでいるのが印象的でした。

続いて9ページになりますが、地域開放の取り組みについて伺いましたので、その辺の写真を撮ってきています。

まず昇降口の写真が一番上にありまして、非常に広々とした全校生徒が出入りする昇降口になっているのですが、ここが学校開放利用でも入り口になっていまして、開放する土日、夜間については、ここにシルバー人材センターから人を雇用しまして、受付要員を置いているということです。ここで受け付けをして、入館証をつけた方が中に入れるということを説明いただきました。

特に開放で人気があるのは音楽室。ご覧いただいてわかるように、非常に広いんですね。ですから、ふだんのサークル活動に加えてミニコンサートを開いたりという活動もあるそうです。昨年1年間で1,100人の利用ということですから、結構な利用だと思っています。

これが授業中の様子ですけれども、非常に広々としています。

その下、今のところ余り利用はないようですが、家庭科室と図工室も一般開放されているそうです。

右側へ行って10ページは体育館。宮代町でも開放はしていますが、ここは開放を前提として、例えば倉庫を2カ所、開放用と学校用を設けたりとかですね、そういった工夫もありました。

ちなみにこういった利用にかかるお金というのはいただいているそうです。宮代町の場合は、照明を使う場合ということで、実費分はいただいているのですが、ここはその代わりに鍵を全団体に渡すんだそうです。その鍵をつくるお金だけはいただくということです。因みに宮代町では鍵はコンビニにあります。利用する方はコンビニにとりに行って、その鍵を持ってあけるという方法をとっています。

この学校の一番の特徴はその下、「温水プール」があります。別棟になっていまして、駐車場も、このプールだけに来る人用が別に用意されています。通常学校で使うのは夏場だけですから、それ以外の期間というのは市の社会体育施設として一般向けに使われています。運営は地元のNPO法人がやっています。ほとんど毎日水泳教室が行われている状態です。この日も幼児が結構泳いでいまして、保護者の方が迎えに来てロビーにいるという、そんな感じでした。にぎやかな環境でした。

続いて11ページです。

学校の図書室も開放しています。これは牛久市内に在住の幼児、児童、それと家族が対象ということで、主に子どもだと思えます。置いてある図書が小学校ですから、子供向けの開放施設となっています。図書館の場合は併設型と学校開放型と両方あると思うんですけれども、学校にあるものを開放するとなると、それなりに利用者というのは限られてしまいますが、併設、ほかの自治体では、例えば町の図書館がそこに一緒になっているものも中にはあります。

それとこの牛久市も、人口の偏在がありまして、あるところでは増えて、あるところでは減ってということがありまして、一度学区の見直しをした経緯があります。特にこのうしく小学校のそばというのは子供の数が増えていましたので、一部の小学校が一部の、別の中学校に行く形に再編成を行っているということを聞きました。基本的に同じ小学校から同じ中学校へ進学するという審議会での答申を経て、新しい学区ができたという説明を受けています。これは、事務局で後日確認した点でございます。

それと12ページは、やはりこれもどこの学校もよくやっていますが、地域連携として、学校の中いろんな地域の方が入って協力、協働しているという事例です。

以上、簡単ですが、視察の振り返りをさせていただきました。

本日これに基づいて、当日の説明は全体で聞ききましたが、移動中など途中で個々に聞かれた話もあると思いますので、その辺の意見交換をできればと思っております、よろしく願いいたします。

○船橋会長 ありがとうございます。

ちょっとたくさんの長編の資料でありましたが、まず、視察研修においでになった方のほうで補足がありましたらお願いをいたします。いかがでしょうか。

事務局のほうで大変丁寧にまとめていただきましたので、私のほうは特になのでありますが、どうでしょうか。

牛久市のほうは新しい、まさにピカピカの学校でした。稲敷市のほうは現在建設中の学校であります。それでは、研修においでにならなかった方で何か、こんな点は聞いてこれたかなというご質問がありましたらどうぞ。

[発言する者なし]

○船橋会長 事務局、どのように進めますか。特にご意見がないようではありますが。

○井上室長 視察のエッセンスがここ（資料1）へ入っているということであればそれでよろしいんですが、例えば視察を終えて、今後宮代町で「こういった点は取り入れていきたい」とか、あるいは「こういった点は配慮したほうがいいんじゃないか」とか、そういったものがあれば今日伺って今後に生かしていきたいと考えています。

○船橋会長 話題が一举に飛びましたけれども、どうかよそ様の様子を見たり聞いたりということではありますが、そこから感じ取ったもので、この審議会の中で生かしていけそうなもの、あるいは話題にしていくとよいとお考えになる、その辺で忌憚のないご意見を頂戴したいと思いますので。

しばらく資料をごらんいただいて、その後になりたいと思います。

ちょっと時間をお願いします。

○野口副会長 視察した牛久市の小学校は相当きれいな小学校でしたよね。その他の小学校はどのような形なのですか。

○井上室長 市のホームページ上での写真を見る限りは、いわゆる「普通の学校」でした。

○野口副会長 従来どおり、従来型ですね。ここだけが新設でという形ですね。

○井上室長 そうです。中にはこの学校に入るために引っ越してくる方がいるということでした。

○船橋会長 そこが不思議というか、何かとてもうらやましいですね。あそこは新しい鉄道ができたからですか。そうじゃないのですか。

○井上室長 実際開発しているということもあるんですけどもね。

○野口副会長 宮代町でも1つが新しい学校になってしまって、他が古い学校というのも、ちょっと考えていかななくてはいけないですよ。

○井上室長 「バランス」ですね。

○野口副会長 「バランス」です。

○鶴見委員 設計、施工というのは大手のゼネコンですか。

○井上室長 視察の資料では、地元業者のようですね、県内の業者のようで、いわゆるゼネコンではないようです。

○鶴見委員 情報共有があるんでしょうけれども、東京で建っている新しい学校は、入り口のところは全部こんな設計になっているので、どこに頼んでも同じ結果になるのかな。

○井上室長 「流行り」はあると思います。今後、新しい建物をつくる際には利用者の声欠かせませんから、設計をいきなり始めるということはないです。ワークショップなどによって使われる方の色々な意見を聞いて、そのエッセンスをプロが図面に起こしていくというプロセスが必要になると思います。

○鶴見委員 ちなみに、この町には1級建築士はおられますか。

○井上室長 はい、後、稲敷市では大学と一緒に話を進めたというのがありましたね。

○野口副会長 牛久市は逆にですね。大学はまた別だという考えでしたね。

○井上室長 宮代町の場合は日本工業大学がありますから、それも1つヒントかもしれないです。

○鶴見委員 牛久の大学というのは筑波大ということですか。

○井上室長 あれは筑波ではなかったですよ。

○船橋会長 今までのワーキンググループの話し合いの中で、地域連携という意味で、高等学校、大学、それから養護学校、町の中のそういうところと連携をしようということはもう話題になっています。

それでは、少し焦点がぼけてしまいましたけれども、一応視察研修については2校研修を行って、ある程度のご事情はわかりました。大掴みに申し上げますと、稲敷市で行いました学校の児童生徒さん、それから保護者の方へのアンケート、実際に実施した、そういう資料も皆さんのお手元にあるかと思うんです。それから、両方の取り組み方、牛久市のほうは地域の皆さんへの開放の仕方、それから、複合施設ですね。そういった意味の勉強ができたということです。時間があればまた差し戻しても構いませんから。次に参りましょう。

2番目でありますが、私たちの審議会がうまく進みますようにワーキンググループを設けました。話をお互いに進めております。その1つに、学校教育グループの活動の報告がありますので、これは和井田委員さんのほうからお話を頂戴したいと思います。

(2) 宮代町の教育の未来を考える

○和井田委員 どうぞよろしくお願ひします。

昨年12月14日に集まりを持ちました。視察が終わった後でしたので、皆さんかなり具体的なイメージを持って臨まれたなという感じがします。その多様な話し合いを事務局が資料にまとめてくださいました。大体それを見ていただければわかるんですが、どのような進め方でいったかというのをパワーポイントの6枚の紙にまとめておきました。

全体的に私が感じていることですが、やはり外側の箱を作ったりいろいろ考えたときに、どうしても「中身をどうするのか」という話というのがすごく大事で、その中身を考え始めると、ちょっと外側の箱や地域づくりに対していろんな思いも出てきて、そしてそれがまた進んでいくと、今度はまた、中身はどうするのかというふうに、多分循環しながらいっているのではないかなと思いました。

やはりこの宮代という町が大きさがちょうどいいというか、皆さんが1つの大きな思いに向かって、共通理解を持って話し合われているなど、その様子に私は感動するような場面がたくさんありました。

ということで、今までは、今までの宮代の教育の歴史を元にどんなことが考えられるかというお話だったんですが、今回はよそを視察したり、それから、日本や世界の教育全体がどんなふうに動いていくかという、そういうふうな視点を入れながら、その中で宮代の教育をどんなふうに考えていくかというふうなお話ができたんじゃないかなというふうに思います。

資料をご覧になっていただきたいと思います。まず、宮代らしい教育の取り組みということで、中身のほうですけれども、この中身のほうで、まず、とにかく何がどう変わっているのか。今あるよいもので残したいものは何だろうということで、皆さんで意見を出して、それで大体一致したあたりをまとめていただいたところがありました。

1つは「環境教育」、今やっている環境教育を質、量が状況に応じて変わることはあるかもしれませんが、しかし、その取り組みの大事なものとして続けていこうというところが強く出てきました。それからもう一つは、宮代というこのローカルで自然豊かな、こういう場所を大事にしながら、しかし多文化も取り入れていくという、そういう町のローカルがしっかりしているからこそ、多文化というふうにも取り組めるわけで、その両方を見る活動をしていこうということが出てきました。それから、宮代町が今独自に取り組んでいる「道徳教育」、これは時代が変わってもよいものは残していこうというお話

が出ました。次のページです。

今、「小・中連携」がいろんなところでやられていますけれども、そのこのところを配慮していく動きというのはとても大事なんじゃないかということです。これ、その先にまた出てくるんですけども、特に小学校の中に幼稚園や保育園も入れて欲しいという意見が出てきました。そういうふうにする事で、親たちもとても負担が軽くなるし、学校にも関わりやすくなるということで、その小・中だけでなく幼、そして大学や高校も、教育が縦の視点でも、年齢を縦の視点でも見ていけるように、そういう工夫をしていきたいというのも出てきました。

そして、次の5番の「宮代の子どもたちは町全体で育てる」ということなんですが、ちょっと後でまたお話ししますが、この間のPISA調査に関わる話の中で、やはりある程度学力が高いというか、ある程度学力を持っている子供たちには、家庭の支援があるということがはっきり出てきているんですね。それで、家庭の支援というか、家庭と学校とだけではなくて、家庭と学校を両方つなぎ支援するものとしての地域という、そういう考え方なんだろうなというふうに感じています。ですから、よく私たちは、家庭と学校と子ども自身と、それぞれ頑張って3分の1ずつの責任なんだなんていうふうに言ったりするんですけども、そこに入って、そしてそれぞれの弱いところや強いところをそれぞれに支えていく、そういう場としての地域というのが宮代はできるんだなと。これをそういう意識で持っていくというのが、「宮代の子どもたちは町全体で育てる」という意味なのだろうというふうに感じています。

そして、そういう中で、「異年齢交流の充実」とか。これは次の「学校を超えた交流の推進」とも相まって、そういうふうな感じで広がりをつくりながら底支えをしていこうというところですよ。

そして、子ども「文化の交流」、これは、交流の中に子ども文化を育てていく、あるいは引き継いでいくという意味合いもある。そして、それがやりやすいような仕組みをつくっていくことというふうなお話もたくさん出てきました。

それから、じゃ、具体的に地域がどんなふうにして手伝うことができるかということは、かなり積極的に話されまして、地域はそういう思いがあるのだし、そして学校はそれを受け入れることができるという、こういうすてきな地域なんだなということをお話を聞きながら感じました。

さて、その中で、「通学区域」や「配置」についても、本当に自然な形で話が出てきまして、やはり「中学校は4学級は欲しい」と。5、6学級を超えるとちょっと掌握が難しくなる場所があるけれども、それでも8学級ぐらいまではいけるだろうと。4から6学級が理想だと。4学級を下回ると、非常勤講師の数が増えるであるとか、それから学級のクラス替が難しくなるとか、いろいろなところで支障が出てくるような部分もあると。4学級ぐらいあるといいなというふうな話でした。

それに対しまして、小学校は理想の学級数としては3学級だというふうなことも出てきております。そこはお読みになっていただければ、その意味は書いてあります。

そして、さらに、やっぱり少な過ぎても困るし、多過ぎても困ると。「30人程度」ということを考えたいと。いろいろな自治体では、そういう30人程度を実現するために自治体として講師を雇っているところもあるんですけども、やっぱりいい教育をしようと思ったら、人や物やお金や、そして時間というのをかけないとできないところというのもあるんで、そういうところもゆっくり考えていかなければいけないんじゃないかという話も随分出てきました。

それから、「学校自由選択制」については、これは宮代全体で育てるという下支えがある限り、この

まま大事にしていこうじゃないかということです。

通学路や距離は、視察の中でも出てきたんですが、やっぱり「小学校は歩ける距離として2キロを上限」としていきたいということでした。それは、学校は避難所になる場合もあるので、その地域の人が歩いて行ける範囲に小学校があるというのがすごく大事だということなんですね。そのところで、どのようにして学校の安全を確保するか、通学の安全を確保するかというところは、今日の午後予定されているワーキンググループの検討課題になっております。

あと、校舎の話も出てきておまして、やはり「木をふんだんに使った校舎がいい」ということで、一致していましたので、ふとコンクリートを使った校舎は、ここ（宮代町）は建たないんじゃないだろうというふうに思いました。

あと、安全をどのように確保するかということと、それから、やっぱり子どもたちを大事にするというのであれば、幼児もまた小学校のそばにある、あるいは小学校の中にあるということを考えてという話が出ております。簡単ですが、まとめです。

それから、私のほうでまとめました、昨年12月14日に配った用紙をご覧になっていただきたいと思いますが、それをかいつまんでお話しさせていただきたいと思います。

これは、ある程度全体的に共有されているものなのですが、これから先の21世紀を生きていく子どもたちを育てる学校というのは、一体どこを大事にして育てればいいのかというところで、日本学術会議という学者の国会みたいなところがあるんですけども、そういうところの教育学の日本のブレーンみたいな人たちと、それから世界のブレーンみたいな人たちの意見を交流しながらつくったのが、この21世紀の学校の課題なんですね。今は、やっぱりもう素直に話を聞いて覚えたことをそのままノートに書き出す、そして答案用紙に書き出して忘れてしまうという子どもたちでは生きていけない世の中になっていると。自分で考えて、そして情報を集めて、そして周りの人と協力しながら新しいものを生み出していくと。自分にしかできないものを持っているという、そういうふうな人たちでなければ、なかなかこれから先の世の中は難しくなっているというのが、これが地域基盤社会の到来ということで、2期ぐらい前の学習指導要領から、この地域基盤社会に対応する子供をつくと、育てるというのはいまもう明言されております。

それは学習指導要領でもいろいろやって、「生きる力」とか書いてあるんですけども、実はあと3つ、今やっておかなければいけないというふうに言われていることがあって、1つは、多文化共生社会への対応で、いろいろな文化やいろいろな思想を持った人たちとどうやって共通点を見出しながら生きていくかという力を育てていかなければいけないと。それから、格差社会への対応で、要は格差社会を解決できるような人たちを育てなければいけない。私たちも含めて勝ち組になれというわけではなく、その格差が広がるのが絶対社会のためによくないのだから、だから、それをどうやって埋めていくのか。それでもやっぱり対話や、それから全体を見る力というのが必要になってくるわけです。そして、そういう中で、自分たちで自分たちの社会や自治体、そして暮らしの中で責任をもって社会をつくっていくことを担う市民をどんなふうにして育てていくかという、この4つが求められていることなんですね。

大きくやると難しいことなんですけれども、しかし、日々の学びの中に、その学びが充実していれば、きっとそれはできるだということで、佐藤学さんという教育学者がいるんですが、彼が牛久市でやっていた「学びの共同体」というのを推進して、それで結構台湾とか韓国とか中国とかでも熱烈に取り入れ

られている共同的な学習の方法を打ち出している人なんですね。その人が何故そういうのが必要かと言っているかという、やっぱり学びというのは、人と出会って、そして、教材と出会って、文化と出会って、自分自身を発見して、仲間とその喜びを分かち合うという、そういう場面があって初めて自分があるのだ。だから、そういう場面のある教室をつくろうじゃないかということ。

あとはちょっと簡単に言いますと、その隣のPISA調査の話ですけれども、「○」が書いてあるのは、前の調査に比べてよくなっているところ、「×」が書いてあるところは、悪くなっているというか、余り変わっていないところ、世界的なレベルで見て低い位置にあるというのが「×」がついているところです。「○」がついているところは、その特徴としては、成績、学力が上がったとうかがえると。特に成績の下位者の数が減っていて、これは先生方がかなり意識して下位者の引き上げを図っているのであろうということが出ています。

それに対して、やっぱり勉強する子としない子の差が激しくて、「家では全くしない」特に「理数が大嫌い」という子が年が上がるにしたがって増えているというのは世界でも突出しています。そして、それがそうじゃない子とそうである子の間には、家庭の中にそういう興味を持ったものに関われるようなものが日本よりも世界の家庭のほうが多いというふうな話でした。

あともう一つ、では成績上位国と下位国から見えてきた学力の環境への影響ということで、大体上位国と下位国、あるいは上がっているところと下がっているところと比べてみると、ここが影響しているんだろうというのは、実は勉強だけじゃなくて部活とかボランティアを行える環境が整っているということ。それから、1日に数時間、自分でコンピュータを使うことができる環境が学校とかに整っている。ただし、数時間というのは2、3時間自由に調べ物ができるという意味で、それが5時間、6時間やっている子は、かえって成績が下がっているという結果が出ております。

それから、幼稚園や保育園教育をちゃんと受けているというのも、やっぱりその後の学力も大きく影響しているということで、授業時間が長いか短いかというのは全く関係がないことがわかっております。

それから、これからの教育で考えたいことというところで、一つ誤解がないようにしていただきたいのは、勉強ができる子を育てたいという意味ではなく、その子その子が持っている夢を実現する仕掛けがあったりとか、それから、その子その子に、その子らしいよさが認められる場があったり、そういうふうな多様な言葉、多様な仕組みがある学校というのが、やっぱりいい学校だろうということなんですね。

ということで、これが世界全体の流れで、それに則って、さっきの学校教育のワーキンググループの話を知ると、世界のかなり先端をいっているんじゃないかなというふうに思いました。

以上で報告を終わります。何かご質問があれば、あるいは補足があればお願いします。

○船橋会長 ありがとうございます。

大まかに2つに分けてお話がありました。ワーキンググループのほうの実際の丁寧なまとめがありますが、補足がありましたらどうぞお願いします。

[発言する者なし]

○船橋会長 自由な話し合いの空気がこういう文になって出てきました。ありがとうございます。

○井上室長 ちょっと補足だけさせていただきます。

この資料の項目で、まず1番の「宮代らしい取り組み」というのは、これは大きいテーマなんですね。これは皆さんが自由にディスカッションしていただいた内容で、そこからキーワードになりそうなものを上に掲げてみました。実際にそこを内訳として見ると、例えば「環境教育」というのがあって、環境教育を進めるということは、グループとしては同じ方向を向いている。その過程で出た意見というのは、下で、この中ポチで幾つか並べたんですけれども、これは項目によってはみんなが同じものもあるし、項目によっては結構みんな違うことを言っているのも中にはあると思います。これは自由意見のところですよ。それを今後、ワーキンググループとしてポイントをまとめていくという理解でよろしいでしょうか。

○和井田委員 何も今、1つにまとめることはないと思うんですね。だけれども、大まかな方向性が固まってきているかなという感じがします。

○井上室長 という構成でつくったので、きょうは全体の場合ですから、いろいろご質問いただければと思いますのでお願いします。

○船橋会長 それから、パワーポイントの資料のほうは、これはとてつもなく大きな話題のような気がして。宮代の子どもたちに即結びつくというよりは、ある意味の理想的な考え方というふうにお考えいただければと思います。言ってみれば、現在の国内の教育にかかわる大きな話題が内閣直轄の中の教育を検討する会議と、文部科学省の中の教育を検討する会議と2つあります。どちらかというと、つまり力の出しぐあい、受けとめ方から言いますと、何かこの教育再生会議、そこから出てくる大きな方針、それが強くなっている時期だと私は感じています。一方で、きょうお話ありましたように、PISA、つまり諸外国の教育、この場合には中学校1年生ですか。

○野口副会長 高校1年生、15歳と中学生ですね。

○船橋会長 高校1年と中学生の両方でありまして、大体15歳から16歳、言ってみれば後期中等教育に入ったところでの学力調査であります。宮代の子どもたちが中学から高校に向かっていくときに、社会人に向かって大きな飛躍をするというようなときですから、その下支えになる教育を私は町の皆さん全員で、つまりみんな育てていくんだと。ちょっと自分の考えが入ってしまいましたが、どうぞ忌憚のないご意見を頂戴したいと思っています。

○渡邊課長 1点質問させていただいてよろしいですか。先ほどのPISAの業績の中で、学校以外で全く学習しない子供の割合が世界的に見て著しく高いという和井田委員のご説明があったんですけれども、これ、解釈の仕方によっては、学校任せみたいな、家庭的にそういう雰囲気がない家庭が増えていくという、これは宮代だけじゃなくて日本国内全体の問題になるかもしれないんですけれども、そんなことまでちょっと思いついてしまったんですけれども、そこまで解釈しては行き過ぎですか。

○和井田委員 いや、そのとおりだと思います。その理由はいろいろですけども、本当に生活が大変で、子どもどころじゃなかったりとか、いろいろです。世界的にも家庭学習は平均すると、全然しないという人の子どもの割合がとても高かったりとか、やっても宿題しかしないとか、家で本を読まないとかというふうな子たちがすごく大きな割合でいるんですね。そこに学校がかなり頑張っ手を入れているという感じはします。

○渡邊課長 直接再編、適正配置というほうに直結する問題ではないのかもしれないですけども、やはり地域との交流ですとか、周りの考え方から影響を受ける保護者の、そういう場を設けるとかですね、そうしたソフトの面ではかなりつながっていくのかなと思います。

○和井田委員 そう思います。

○船橋会長 和井田先生、僕からの質問で、今の家庭学習をしないというのは、このテストを受けた対象者の中のことなんですね。

○和井田委員 そうです。やっぱり全体的に、ある程度受験が近づくと塾に行くんですけども、塾でしか勉強していないとか、宿題しかしないとか、そしてまた、高校へ合格すると全然やらないとか、そういうふうなことが割と日本は一般的になっていて、それに対して先進国は中学より高校、高校より大学は勉強するのが当たり前だという文化があるのは確かですね。でも、その全然勉強しないというところと、それから、家庭に学びのリソースがない、学ぶ環境がないというのと割と直結しているんですね。ですので、そういうふうなところに地域のバックアップがあったり、それから学校が手を入れることでかなり改善の余地はあるのではないかなと思います。

○野口副会長 15歳3カ月から16歳2カ月まで入ってますね。

○和井田委員発言 そうなんです、15歳です、PISAはそうです。ほかにも学力検査はありまして、それは小学生も、それから中学生も検査をしています。

○船橋会長 ありがとうございます。

今の点をちょっとまた別の機会に取り上げてみたいと思いますが、というのは、PISAの発表の成績の下位の人たちの数が減ってきているということで、勉強、今の子はですね、学校以外で全く学習しないというのはどうも何かどこかに矛盾があるのかなというような……。

○和井田委員 いや、それは世界的には日本は最下位に近いんですけども、これは最下位に近い状態に変わりはないけれども、それも減ってきているんですね、全然勉強しない子の数が少しずつ減ってきていることと、成績が上がってきていることと関係があるんです。でも、やっぱり最下位なんです、最下位に近いんです、先進国の中で。

○船橋会長 ありがとうございます。ちょっとその辺で一応、課長さん、よろしいですか、今のお話は。

○渡邊課長 はい。

○船橋会長 ちょっと深めたいところがあります。少し話題がですね、さっき申し上げたように、上級学年のほうでありまして、もう少し調査の内容をよく見たいと思います。ほかにございますか。

[発言する者なし]

○船橋会長 今の話題は2月に予定しております意識調査とも関連しますので、そのことを踏まえてのご意見、あるいはお話を頂戴したいと思います。よろしゅうございますか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○船橋会長 他にお話がなければ、次に進めさせていただきます。それでは、今後のことにかなり大事な話題であります、次の意識調査の実施について。これはワーキンググループ広報のほうで、野口副会長がご担当であります、お願いをいたします。

(3) 意識調査の実施について

○野口副会長 それでは、ご説明させていただきます。

昨年の12月24日火曜日に、私ども広報グループは会議を開きました。開会をしまして、その次に11月19日の視察研修の結果を会議前に研究報告等という形で話し合いました。話した内容は、先ほどお伝えしたとおりで、今、会長さんから出ました意識調査について、少しそれについて説明させていただきます。

アンケートの目的は、宮代町立小・中学校の適正配置及び通学区域の編成等に関する検討に当たり、それにかかわる町民の意識や意見を明らかにするという目的で行いたいと思います。

アンケートの実施方法ですけれども、対象者としまして、もちろん生徒、児童、あと教師ですね、教職員の皆さんと、あと、これ段階的に行ってもいいのかなと思うんですけれども、保護者と、あと地域の住民の皆様に向けた意識調査の対象として考えています。

質問の内容部分も、小中学校、学年に合わせた様式というんですけれども、小学校低学年と高学年、それこそ中学生、同じ質問ではちょっと通じないので、学年に合わせた質問様式というような形で考えていくつもりです。あと、実施期間ですね、会長さんから言われたとおり2月以降になると思います。学校関係は2週間を目安とする、実施期間を目安とするというところを話してまいりました。これについては、補足等、井上さん、お願いいたします。

○井上室長 承知しました。ありがとうございます。

先月24日にワーキンググループの会議を行いまして、今、説明のあったような方向性をいただきましたので、事務局で整理した項目を「資料3」にまとめました。

意識調査自体は教育委員会のほうで実施させていただきますので、今日は「こういった項目は聞いておいた方がよいだらう」などについて、お話をいただければいいかなと思っております。

まず、意識調査の項目ですが、小中学生の保護者の方には是非行いたいと思っています。項目は、まず「回答者ご自身」、これは月並みですが、後ほどクロス集計するためにとるものです。「年代」、「性別」、「子供の学年」。

それから次に、「通学状況」として、これはワーキンググループでも話し合われていますが、実際通学時間にどれくらい要していて、どれくらいが増減と考えられるかという意見を伺う設問項目です。

あわせまして、通学区域を設定する場合に配慮すること、注意することということで伺う必要があると考えています。例えば安全面であるとか、地域コミュニティであるとか、そういった点になるろうかと思えます。

余談ですが、牛久市では、アンケートはとっていないんですが、先ほど申し上げた中学校区域の編成、再編に当たって審議会の中では、当初地域コミュニティを中心とした学校について提案がありましたが、修正し、「同じ小学校からの子は分かれなくて中学校に上がる方がいい」という方針をいただいたということの説明を受けました。どちらが正しいとかではありませんが、この項目は聞いておいたほうがいいと考えました。

それと、Ⅲ番目が先ほどの報告にもあったように、大体どれくらいの「人数」、「学級数」が望ましいと考えるかという点、それから、今、少子化によって小規模化が進んでいますので、どんな点で困っている、あるいは困っていないのかということを実感として聞きたいと思いました。具体的には、例えば「部活動」のところですか、あるいは子供たちが減ると、いろいろ鍛え合うとか、競い合う機会が減るとか。これも稲敷市を参考に作成していますが、そういったことは聞く必要があると思います。

問10として、優先して学校にどのように施設、設備をつくるべきかということです。具体的には、エアコン、空調とかパソコン関係、安全施設などが項目として考えられます。

それから、Ⅳとして、ここは宮代オリジナルになると思いますが、今後学校施設を核としていろんな公共施設の機能をつけるということ自体についての是非を問うものです。合わせて、もし設置する場合、こんなものは良いけれども、こんなものはよろしくないよということも聞きたいと思っております。

Vですが、自由意見を書いていただく部分です。以上、大きくは5項目13の質問を投げかけたいと思っています。裏面、ごらんいただけますでしょうか。

裏面は、「教職員」、それから「児童・生徒」という項目出しをしています。こちらについては、稲敷市はこの2つの対象に対して実施していますので、今回用意をしました。教職員については、現在の年齢ですとか立場、学年、こういった点をクロス表にお聞きした上で、先ほどの保護者と同じ質問を学級数、生徒数を投げかけたいと思っています。

それと、児童生徒ですが、稲敷市は、（実施する）タイミングだったんでしょうけれども、こういった形でとっています。この質問項目は、ごらんいただいてもわかるように実は直接学校の適正配置と直接関わる質問ではないです。子供たちを対象にして適正配置のための意識調査というのは、今の宮代町でとる段階ではないと思っていますから、今後必要に応じてこういった項目、恐らく既に学校でもこれに

類する質問、アンケートをとったりしていると思うんですね。そことうまく連携をとりたいと思います。ですから、この審議の過程として、子どもたちからアンケートをとるということは事務局提案としては考えてはいません、というところで整理をしました。

この後、ご質問、あるいはこういった点で聞けたらということがあれば、意見交換したいと思います。よろしくお願ひいたします。

○野口副会長 ありがとうございます。ここからの意識調査に関するものは以上です。

○船橋会長 私のほうから事務局にご質問をしたいんですが、具体的なアンケートの文面はどういう形で出てくるのでしょうか。

○井上室長 文面については、今作成中ですが、町教育委員会主体で実施をしたいと思っています。

○船橋会長 それはもう異論のないところなんですけれども。ここに意識調査の方向は見えてきましたが、具体的にどういう形で質問を羅列するかということですね。それともう一つは、教育関係のワーキンググループのほう、それからもう一つのワーキンググループのほうで検討している内容が意識調査の中に反映されていくんであろうと僕は考えているんですが、その辺の兼ね合いはどんなお考えですか。

○井上室長 では、今現在の案をご覧いただいたほうが早いと思うので配付します。

○船橋会長 そうですね。

それでは、今10時35分を回ったところでありますから、10分ほど、50分まで休憩をいたしましょう。

〔休 憩〕

○船橋会長 再開をいたします。

先ほどの3つ目の話題の続きであります。事務局のほうから意識調査の、言ってみればこれは素案と言ってよろしいでしょうか。そういう参考資料を頂戴できましたので、ちょっとそれをご覧いただいて、意見を交わしたいと思うんですが。それから、ちょっとこの場でもってお諮りしたい点を今、和井田委員さん、野口副会長さんとお話をしたんですが、今後、審議会で意識調査のいわゆる文面を検討する時間というか、検討する手はずを経ないで、教育委員会のほうから、いわば町の役場のほうから意識調査の内容を出していただく。この審議会では、その意識調査結果の報告を受けて、答申に反映していくという、そういうスタンスでよろしいかどうかお諮りをしたいと思います。

この点についても後ほどまた皆さんのお考えを頂戴したいと思うので、あらかじめ申し上げておきます。それでは、事務局のほうで、これをご説明をいただいて、少し意識を高めたいと思います。

お願いします。

○井上室長 ありがとうございます。お配りした資料は、現在事務局でつくっている意識調査の資料で

す。見開きになっていまして4ページ分ありますが、大体各家庭で一般の方に書いていただくとすると、これぐらいがいいのかなというようなボリュームを考えたところです。それと、他の自治体で既にやっている事例も幾つか勉強しました。当然私どもでアンケートをとった内容は、そういった自治体との比較も必要ですので、項目については、ある程度、他の「いいとこどり」をさせていただいているという点もあります。先ほど資料にあったように、稲敷市にも多分に影響を受けています。では、説明します。

まず1枚目ですが、これはこのアンケートをとる趣旨と、現在、町で検討している状況について簡単に触れさせていただきます。

開いていただいて、まず設問項目に入りますが、まずⅠの問1から3は、先ほど申し上げたように回答者自身についての問いです。中学生用は学年が変わってきます。

次に、Ⅱですが、通学状況、徒歩、自転車、その他というのがあるのかどうか分からないですが、その確認と、それから距離の現在と今後の上限ですね。それについての問いです。

問7が優先すべきこととして、例えば道路環境、安全面ですね。それから距離、地域、公共施設といったようなことで、ここは2つ以上選択していただくことで大体配慮事項というのが見えてくるというふうに思っています。

右側のⅢが学校、学級の規模なんですけど、これは確かに昨年ですか、昨年この検討に先立ちまして、資料でもお配りしましたが、各学校長の方にインタビューを行わせていただいて、子供の数が減るとということで、幾つか課題があるということを知りました。それが実際皆さんも同じように感じていらっしゃるかどうかということをご具体化したものです。

例えば「①仲間との切磋琢磨の機会」、「②集団活動での取り組み」、「③がほかの子供たちとの考え方、価値観の違い」触れること。それから「役割の固定化」、「先生の数の問題」、「PTA活動」、「保護者同士の交流の問題」、「学校行事」のお話、「クラブ活動」のお話。これらについて、4つの選択肢の中から、これはもう感覚的なところもあると思いますが、伺って、全体の傾向を見たいと思っています。それを踏まえてですが、問9、問10では、1学級の人数、学級数、それぞれ選択肢の中からお答えをいただきたいと思っています。

最後のページになりますが、前問で、学級数、児童数を選んだ理由というのがあるんだと思うんです。その学級数については、その理由について、どんな点からそうお考えになったかを伺いたいと思ひまして、アからキの設問項目を設けました。「同じ友だちで過ごせる」、これは少ない学級を選んだ場合になると思ひます。それから、「クラス替えができる」というのは多い学級を想定しています。その下に、「経験」、「未経験」、「協調性」ですね、それから学校全体のことで等々、いろいろと事例を参考に考え得る質問項目を用意してみました。

問12は、主にハードについて記載しています。先ほど申し上げましたが、冷暖房、セキュリティー、図書、トイレ、エコ等ですね。ここからは3つ選んでいただくことで整理をしたいと思っています。

Ⅳとして、問13、14ですが、学校の建てかえが今後あったときに、それにあわせて施設の共存、連携についての考えです。仮に連携する場合はどんなものが考えられるか、これはアイデア出しの部分もあると思っていますので、ここで皆さんからアイデアを頂戴して、今後の検討の中で生かしていければと思っています。

最後、問15が自由記入欄ですので、ご自由に意見を書いていただいて、後ほど整理します。以上、15問にわたりますが、これが保護者向けの意識調査として、教職員の方については、大きい数字Ⅲの

問8から問12までをお尋ねをする予定でございます。

以上です。

○船橋会長 ありがとうございます。

どうでしょうかね。先ほどもちょっとお話をしたんですが、ここにひな形がありますので、きょう午後、教育のほうのワーキンググループがありますから、そこで、今度は具体的な文面で補充をしていくという場面もあるということによろしゅうございますか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○船橋会長 では、それを一応意識しておくことにいたします。

○井上室長 意識調査自体につきましては、もちろんこの審議会でも参考にいただくこともあわせて、統合校の計画づくりをする過程でも多分に参考にしなければなりませんので、そういった観点から項目を整理してはいます。

○船橋会長 どうぞ。

○和井田委員 具体的なことですが、会長さんがおっしゃられているのは、例えば学校教育ワーキンググループがこういうことを大事にしたいと言っている項目がもう少し反映されるといいなというふうな意味なので、多分これは教育委員会として最終的に出すので、一応私たちがこういうふうなのが入るようだったら入れて欲しいということをお話するとしても、最終的には教育委員会のほうでどういう文面を出すのか決定して出すということで理解してよろしいのかなと思ったんですけれども。

何かこのままだと、ぱっと感じたのは、私たちの考えの中では、学校の中に幼児教育の施設もあるといいなという話が出ていますので、そうすると問14「地域の子どものための施設併設」の中に児童館、学童保育だけでなく、保育園、幼稚園もちょっと入るといいなとか、あるいは、エコ環境というときに芝生化が果たしてエコ環境なのかなと、一体そのエコ環境というときに、もうちょっと例を出してもいいのかなとか、そういう細かいところになるかもしれませんが、少し受けとめてもらえるようなことがあるといいなと思います。

○井上室長 わかりました。

○船橋会長 それでは、そういう今のようなですね、ワーキンググループの考え方も反映していくということで、一応基本のご理解をいただきたいと思います。この調査結果は、調査の具体的な問いかけのもので、今後できていくものなんですが、そういうところから集約、集計をして取りまとめた内容を今後何らかの形で町の皆さんに公開していくという、そういう前提ですね。

○井上室長 そうです。

○船橋会長 そうですね。

○井上室長 はい、次回審議会はこれ（意識調査）を実施して中間報告ができるぐらいの段階で開催できればと思っています。

○船橋会長 ちょっと取り扱う数も相当多いもんですから、事務局のほうが非常に大変な作業になるかと思えますけれども。大丈夫でしょうか。

○井上室長 はい。

○船橋会長 ありがとうございます。

○和井田委員 あと1つ、済みません。この会議はもう何回も開いて、皆さんいろんなことを共通理解しているから、1つの言葉を全然違うふうに使って受けてみるということはないと思うんですけども、このアンケートというのは数で出てくるので、私たちが思っているのとは全然違う形の結果が出てしまったときに、それを一体どう扱うのかということもある程度、少し考えなくてはいけないかなというふうな気がするんですよ。では、そここのところがわかるほど丁寧に書いてあるかということ、そういうわけでもないですよ、とても一般的なことで。そして、それを公にして、例えば小学校は単学年でもいいんだとか、単学級でもいいんだというのが過半数を占めたときに、じゃ、それで行っちゃおうとか。何かその扱いのところまでですね、少しある程度こちらがイニシアチブをとるんだったら、そのあたりも少し入れた形で問題文をつくっていかないと、あるいは全てを公開するわけじゃなく、それを参考にしながら、さらにアンケートを細かくとっていくこともあり得るから、これは大枠のアンケートであるとか、何かそういうふうなことがないと、まずいことも起きるような気がしないでもないんですが、そのあたりはいかがですか。

○船橋会長 今の点はとても難しいですね。というのは、現実の問題として起こり得ることですね。各学年全部が単学級ということは、そんな極端なことはないとは思いますが。

○鶴見委員 将来のことはわからない。

○船橋会長 わからない。向こう20年先を考えると、何が起きるかわかりませんがね。そうですね、和井田委員さんが今おっしゃったようなことを審議会としてどういうふうに理解し、どういうふうにまとめていくかですね。

○鈴木委員 今後のこの流れとしてなんですけれども、意識調査は、これは絶対大事なんで、するべきかなとは思いますが、読む人によっては、ここにいるメンバーは内容がわかっているので素直に聞こうと思ったら聞ける内容ですし、そのまんま今まで勉強していることもあるので、それに基づい

た回答も書けるかとは思いますが、人の気持ちというものは様々なので、最初の例えば打ち出しの、「保護者の皆様へ」という文面も、人によって肯定的にとる、否定的にとる、やっぱりこれさまざまなんです。例えばこの意識調査だけ、これ見方によっては完全に、町もかなり衰退しているので、もう学校を潰してしまって小さくしてしまう位な勢いに解釈する人もいると思うんですよ。だから、正しく、やっぱり本当にこれから子どもたちの将来を本当に思って、今ある子どもたちを大事に、それこそ本当に宝のように、前向きに育てていくという前向きさが伝わるか伝わらないかというのと、とり方によってはいまいちとりづらいかなと。もっと町をよくするための事業の一環として、まずは前向きな意見を聞かせてください、というふうにはとれる人ととれない人、この文面では様々かなというのが大きいかなと。それと、これだともう完全に質問ができ上がっていて、そこにアイウエで答えるみたいな感覚ですけども、この意識調査だけをもって、一応町民のいわゆる民意だと思って集計してしまって「ゴー」を出すのか、それとも、こういう会議を、例えば公開会議にして、内容として本当に生の意見がどういうふう飛び交っているのかという聞く機会を、例えば住民の皆さんに見てもらおうという機会を今後例えば持つ、持たないによっても、住民の人の理解も大きく変わるでしょうし。または、どういう形をとるかはちょっと別として、意見をとりようかじゃないですけども、生の声を直接聞いたり。やっぱりここに書けない思いがあるのかなというのもあるので、そこを聞き入れてあげられるような場をとるのか、とらないのかという方向性として、今後どうされるのかなというところをちょっとお聞きしたいなど。

○井上室長 では、会長、よろしいですか。

意識調査に関しては、本当は聞きたいことは山ほどあります。いろんな、あれも聞きたい、これも聞きたいとすごくいっぱいあるんですが、最初からそれを聞いてしまいますとすごい量になってしまうので、やはり書く側の負担もあると思います。今回の意識調査は、町としての1つの方向に向かって進んでいるんですが、さらに一步進めてよいかということを確認するためのものだと思っています。ですから、トータルとして今言ったような幾つか方向を聞いていますから、それが全く違うだよと、民意がもう全然違うんだよということになれば、町としても軌道修正しなければならないと思っています。

それが1点と、先ほど鈴木さんのお話にあった町全体、実際に全てができ上がった後ですから、来年度になりますが、今、事務局では町民の方を巻き込んだフォーラム形式での住民へのアナウンスといいますか、未来の教育環境をこういうふうにつくりたいということを考えているということのを投げかけたと思います。その過程で、当然こういった話も出さざるを得ませんが、そこでは内容についても丁寧に説明をして、合意じゃないですね、町全体が目標は教育環境だな、子どもたちだなということのを共有できるように仕掛けはさせていただくつもりです。

○鈴木委員 ありがとうございます。

○船橋会長 今の事務局のお話で、冒頭の言葉、つまり町が今後市民の皆さんに示す姿勢ですね。それをどういう言葉で伝えるか。だから、そういうことが今おっしゃったようにね、最初の呼びかけのところに言葉として入っているのと入っていないのでは…。

○鈴木委員 大きく違いますね。

○船橋会長 大分違うと思いますね。だから、さらに今……。

○鈴木委員 だから、こっちの内容よりは、ここの頭がすごくキーになるかなと。ここのとり方によって全てがかなり大きく民意が動くなと。だから、この文面だと、僕は合格点が個人的にはあげられないかなという気がします。すみません、生意気言って。

○船橋会長 だから、教育長さんがどんなふうにお考えになっているか、町長さんがね、向こう20年の宮代の教育をどんなイメージでお持ちになっているか。あるいは、平成23年に生まれた公共施設の今後のマネジメント計画ですね、町で言うと第4次の総合計画、これは年次進行で見直していくということですから、そういうところに反映させていく。つまりここの意識調査であっても、その裏側には町の財政が絡んでくるはずなんですね。そういうところを市民の皆さんが、20年経ったら学校はもうぼろぼろになっちゃうんだよという問いかけでいくかいかないかは大分違うと思うんですね。

それから、ワーキンググループのほうで、学校の教育は町の全員で子供たちを育てていくんだよ。それでこのアンケートもその一環ですと、こういうふうに捉えるか、大分違うと思うんですね。ここはちょっと難しいですね。

○鈴木委員 ここが多分「命」になるんだと。一発目に出すところですからね。これ失敗してしまうと、もうとめどなく悲惨な状況になるんかなと。

○渡邊課長 非常にありがたいご意見だと思います。行政においては、総合計画の中でも、これ出てきた方向性ですけれども、小中学校だけに限らず箱物全てがバブル期に肥大し過ぎて、これから少子、人口減という時代に対応できなくなってきたというの大きな方向であるわけでございまして、そういう背景を受けて、町の総合計画の中でも、まずは財政的な面から施設の統合再編、そういったことが出てきています。でも、この審議会で皆さんにご議論をいただいて、単に数の問題だけじゃありません、財政の効率化だけの問題じゃありません。せっかくの機会、プラスに中身を再編していく、将来の子供たちの教育環境を向上させる機会と捉えようということで、皆さんのご意見いただきながら進んでまいりますので、非常にいただいたご意見はありがたい。実際にこのアンケートを見ていただく保護者の立場から言っているご意見ですので、そういうご意見をいただいた上で整理させていただきたいと思います。ありがたいと思います。

○船橋会長 わかりました。ありがとうございます。なかなか難しいですね。

○鈴木委員 だから、この文面がうまく、みんながこれならいいんじゃないというふうなものうまくできればですね、例えば今、町民の子どもだけを考えたら、本当に少なくなっていくという傾向のデータのそのまま当てはめて、新しい学校をつくってもさらに減ったらどうなるのという話になりますけれども、本当にいろんなものを考えた上で、未来にかけるかけ橋じゃないですけども、本当にいい学校

ができ、例えば政治も充実して、例えば駅整備とかできれば、越谷とか松伏とか吉川市のように、学校をこれからまたふやそうという計画なんかある町もあるわけなんですね。本当に、あ、宮代町の学校がすごいとか。やっぱりその地域一体となって取り組んでいる姿を見て、こっちの町に引っ越したいなど憧れるような町をまず一つ、ここも魅力の一つだというふうになってくれば、これ、今の町民が悪いイメージになってしまうと、うちの町へ引っ越すと最悪だよと、余りよくないよになってしまうと、やっぱり町民がふえる傾向も少ないかなと。

この町の子どもたちだけじゃなくて、もう魅力あふれて、それこそ宮代にうちの子供たちを通わせたいという親がふえて、住民がそれこそこの狭い土地に10万人超えたら大したものですよ。そのぐらいのものになればもっと大きいかな。だから、どうせやるなら前向きな方向性で事が運べるようになるためには、この一発目の文面が、事務局がもうちょっと徹夜していただいていい文章をつくりかえてもらえたらなど。

○井上室長 ありがとうございます。

○船橋会長 そうですね。事務局も今の点をよくよく考えてお願いします。

○高柳委員 今の町民の方から判断すると、私の感覚ですが、いろいろな区長さんや何かのいろんな意見を、町民の方の意見を総合すると、文章をどういうふうに表示しても、今厳しい状況にあるというイメージがもう植えつけられているというか、そういう空気ですからね。ですから、いろいろな施設にしても委託しなければならないんだということで、来年、あるいは再来年、できればすぐでもしたいという、その手を挙げてくれる、委託したいんだけど、そういう委託先がないので、仮に空き家になってしまっているという町管理のそういう施設もあるわけですよ、施設って、今使っていませんけれどもね。だから、私に言わせれば、相当町長さん、教育長さん、担当の課長さんあたりは、腹を括ってこれを出すということを私は考えたほうがいいと思うんですね。生半可考えていると、ちょっと文章で理解させるというわけには、私は今の宮代町の環境はないと思うんです。

だから、それ以上のことを言うといろいろな考え、物の考え方によって差が出ますので、申し上げませんが、今の状況ですと、これでいいということじゃなくて、委員のおっしゃられるように、やはり最善の説明書きでやることは必要ですけども、よほど腹を括ってやらないと、その状況は「またか」というふうな状況にあるということだけは、皆さんはどう感じているかわかりません。

○鈴木委員 区長さんたちだと、多分町の現実をよく知っているはずですから、長く住んでいる方ほど町へ対しての思いが強いし、よく知っているだけに、確かにそういうよく知っている人から聞けば、どんな文面書いてもそうですよね、確かにね。ただ、総意で本当にあれですよ、マイナスイメージでとられてしまうと、何も事を運べなくなって、町も元気がないかなと思ったんで。うまく調整しないとイケませんね、そういうところをね。

○高柳委員 まあ一つの例ですけども、町長着任、最初の議会でも合併の意識調査も実施するということでね、早い時期、26年度か、26年度の早い時期に実施するそうです。やっぱり厳しいんだなという

のが、このアンケートは2月ですからあれですけども。ただ、そういうことの意識調査があったということは拭えないものになりますからね。以上です。

○船橋会長 ありがとうございます。

ちょっと僕は、どうまとめていいか今とても困っているんですが、これまでのお話の中から考えますと、市民の皆さんが現実に受け取る受け取り方というんですか、既にもうご理解になっていることを考えるという、そう考えると、ある意味、ある方向の視点を定めてアンケートをとりますよという姿勢を示した上で、それができるかどうかですね。だから、向こう20年間の町の教育はこうあってほしいというものがあって、そこから意識調査をするか。それから、町の町政を考えて、向こう20年間、この町の教育はこうなっているよというふうに捉えるのか。その辺がどう考えていいか僕はちょっと今悩んでおります。余り悩むと、意識調査そのものがもう自信なくなってしまうから。それではいかんと思いますから。

だから、さっきお話がありました、意識調査をした結果を見てどう取り扱うかということも考えておかななくては行けない。これもごもつとも。意識調査の文面の冒頭の、いわばある意味意識の御旗ですね。ご理解いただく言葉をどこに置くか。これも大事なことになります。そういう意味では、今ちょっと一つの岐路に来ていると考えますね。さあ、どうしましょうか。

○和井田委員 今起こっている話は、別に反対意見が出ているわけではなく、方向性としては全然これでいいけれども、でも、こちらもちょうと厳しい結果が出ることも予想しながら、それに対して少しゆるやかな準備もしながらいきましょうというだけだと思いますので、新たに方向性を変えることはないんじゃないかな。

○船橋会長 その方向性を変えることはないんですけども、意識調査を実施するいわば基本の考え方ですね。そこを市民の皆さんにお見せしたほうがいいと思うんですね。ここに出ていることで考えますと、児童生徒数の減少といわゆるインフラの老朽化ですね。これはもうこれまでの公の町のいろいろな「マネジメント計画」の中でも示されていることですから。繰り返し使って大丈夫だと思われま。

だから、そういうことを理解した上で、この意識調査をするのかということでもありますけれども、具体的な内容を見ますと、市民の皆さん、つまり保護者の皆さんがどんなふうに理解しているかな、というところを知る意味だと、それが、この内容はいいと思うんです。

ですから、さっき室長さんのほうからお話がありましたように、今後、町の市民の皆さんと同席をして、教育の未来を語るフォーラムというようなものも考えているんだ。そういうことならば、それも一つの動きだと思うんですね。そんな方向でどうなんでしょう。役場の教育委員会の立場として、そういうところに触れていく言葉を使うかどうかですよ。それが高柳委員さんもおっしゃった、腹をくくっていく必要があるよというところにひっかかってくるのかなと僕は思うんですよね。

○井上室長 この「保護者の皆様へ」という冒頭文の準備に当たっては、まず一番最初に考えたのは、この件については余り包み隠さずといいますか、事実は事実としてありのままにお伝えして意向を伺おうという意図があります。これが先ほどおっしゃった少子化の問題、それから建物の劣化の問題。それ

はお金、ハード、ソフト両方です。それについてはきちんとお伝えしなければいけないという点。

もう1点あるんですが、それがちょっとここでは表現し切れていないんですが、確かにピンチ、大変なんです、ただそれはチャンス、新しくしていくための機会でもあるという点をここに反映し切れていなかったという点が先ほどのご指摘かなと思います。その点は非常にありがたいと思いましたが、そこを工夫させていただきたいということで、ここで腹を括りつつ、かつ将来に向けて、町民の皆さんにこの話、結果は別です。この話の俎上に上がっていただく機会につなげたいと思っています。

○船橋会長 今のお考えは、僕は大事だと思うんですけどもね、いかがでしょうか。

○和井田委員 そうすると、ここで出てきた意識調査の中で、例えば私たちが考えなければいけないこと、そんなこと考えなくてもいいじゃないかみたいな結果になってしまったときには、その先でフォーラムなどをやりながら、わかっていたかなければいけないというふうに私たちが判断する基準にするというふうに考えていいですね。

だとすると、ある程度こちらとしては、大枠が決まっています、そして、どれぐらいわかってもらえるか、そしてまた余りにも違う場合にはどれぐらい歩み寄るかという、そういう材料としてこれを使うんだというふうに理解していいですね。

○井上室長 私はそうに今、受けとめますけれども。ここでは、やらなければいけない、財政的な面も含めてできる限界があるわけですから、それに対して住民の方にどうやって説明していくかということを考える機会です。

○和井田委員 余り限界を考えてしまうと、設備の充実についてかけることがとても少なくなってしまうわけで、だから、そこところは少し大きく考えて、そしてこれをそのまま数字で扱うんだけれども、だけれども、ここからどうやっていけばいいかという参考意見にするんだというところまでを書いておくと、何ていうのかな、ちょっと私たちは意見を言ったのに全然違うじゃないみたいなふうにならずに済むかなと思うんですけども。どう使うかですよ。

○井上室長 はい。最後、その施設面については、今の時点ではどんなものが出るのかなという、我々も参考でしかないんです。もし実際につくり上げる段階に進めれば、先ほど申し上げたようにワークショップなどを通して地域をどんどん巻き込んで、その地域にとって必要なものはつくれると思うんです。

○和井田委員 そこまで書いたらどうですかね。そういうふうなことも先々あり得ますと。

○井上室長 ここに「注意書き」みたいにしてはいかがでしょうか。

○和井田委員 はい。

○井上室長 わかりました。工夫します。

○船橋会長 今見えてきたことを考えますと、要は、現実を市民の皆さんに理解していただくと。つまり少子化とインフラの老朽化ですね。それを将来こうなっちゃうよ、潰れちゃうよじゃなくて、さっきおっしゃった、これを生かして今後の町の教育のあり方の中に生かす一つのチャンスなんだという言葉ですね、それを織り込んでいただいて、意識調査の結果の利用については、今後、今、第4次総合計画ですか、そういったものへの反映、あるいは今後の町の教育委員会の教育行政の中に生かしていくんだということをお示しになるといいと思いますね。

○井上室長 はい。ありがとうございます。

○船橋会長 そんな意味で、また内容を見たいと思いますが。この点は、事務局と野口副会長さん方の広報の研究部のほうでもご検討を続けていただいて、ある程度見えてきましたら、またご紹介いただきたいと思います。

それから、ワーキンググループのほうでのお考えを実際の文面の中に生かすということは、今日は学校教育のグループが午後ありますから。教育の方は今日の午後、ある程度の要望事項を、織り込み事項をですね、ご提案できるかと思います。

各委員の皆様は、これをご覧になっていただいて、もう少し具体的なご意見がある場合は、事務局のほうに直接お話しいただきたいと思いますが、事務局、よろしゅうございますか。

○井上室長 はい。1点だけ申し上げますと、実はこれをあえて本日ご提案しているのは、やはりこの場で一緒に審議をいただいた皆様ですから、いろいろアドバイスを頂戴したいという趣旨ですので、この後のワーキングも含めてご意見はいただきたいと思います。

あともう1点、先ほど申し上げたように、アンケートは実は先ほど高柳委員さんからありましたが、町の腹の括りの一つとしてやるものだというふうに理解しています。ですから、どう腹を括るかについてはある程度お任せいただくところもありますけれども、ご承知おきいただければと思います。よろしくをお願いします。

○船橋会長 そのほかですね、まさに町の方針に関わってきますので、よくお考えをいただいてご紹介いただきたいと思います。

○井上室長 はい。ちょっと補足させていただきますと、最終的には町長を中心とした、今、内部で経営会議という組織がありますので、その場で最終的にアンケートについても確認、皆さんの意見をいただいて、やはり町として、高柳委員さんのお言葉ではありませんが、腹を括って上で出すということで考えております。

○船橋会長 非常に長期にわたってのことです、きめの細かい対応をお願いしたいと思います。

○野口副会長 今まででの調査とはまた別なんですけれども、稲敷市さんで私が伺ったところに、統合

後にアンケート、整備された後にまたアンケートをとりたいというのが出ていたと思うので、宮代町もですね、まだ意識調査もやっていないのに、その後のアンケートというのはちょっと気が早いと思うんですけども、そこまでこの一つの関連性として、行政のほうでもとり行っていたらいいと思います。

○船橋会長 要は、単発ではないということですね。

○野口副会長 そうですね。

○船橋会長 それは是非お考えの中に入れておいていただきたいと思います。少し話題があちこちいきましたが、本日用意しました議事内容3つ、今の意識調査の点は今後に活かしていただきたいと思いません。

○船橋会長 それでは、(4) その他に移ってよろしいでございますか。

[「はい、お願いします」と呼ぶ者あり]

○船橋会長 ありがとうございます。さっき申し上げた1点ですね、審議会としてはアンケートの結果をご報告いただいて、それを答申に活かしていくという1点を確認しておきたいと思えます。よろしゅうございますか。最初からこういう方針ですから、一応よろしいかと思えますけれども。

[「結構です」と呼ぶ者あり]

(4) その他

○船橋会長 ありがとうございます。それでは、その他は、次回の会合であります、これは意識調査の修了した後、つまり3月になりましょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○船橋会長 3月は年度末で忙しいので、どうなんでしょうかね、3月は。

○井上室長 最短でということで今組んでいますので、町のほうも議会関係もありますので、改めて調整させてください。

○船橋会長 むしろ4月のほうがいいんですか。

○井上室長 4月は4月で…。改めて日程については調整させていただきますか。

○船橋会長 そうですね。そうしてください。

〔「PTA役員は5月改選」と発言する者あり〕

○船橋会長 それはありがたい。

だから、5月の任期が終わるまでは、委員の顔ぶれが変更になるということはないということですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○船橋会長 では、次回の会合については、事務局とまた調整をお願いいたします。ご希望がありましたら、事務局のほうに直接おっしゃっていただいたほうがいいと思いますね。

○井上室長 会長からいただいた資料はお配りしてよろしいでしょうか。

○船橋会長 どうぞ。

〔資料配付〕

○井上室長 配り終わりました。

○船橋会長 ありがとうございます。

これはですね、ごく参考に、今後ですね、通学区域等話し合いのときに利用するといいいかなと思いついて、地図を調整して見ました。1枚は小学校の4校の地図、もう1枚は中学校3校の地図であります。円は、小学校はご希望の通学2キロ圏を示して見まして、中学校のほうは法規制のほうは6キロであります、その半分を示してみました。ご参考に。

それから、学校以外の公共施設はそこに書き込んでみました。町の役場と給食センターは、書いてございません。それから、保育園は、町でつくりました保育園のほかに私立、認可の百間保育園を参考に記入しておきました。

○野口副会長 そうですね、こうやって見ないと距離数というのがわからないですね。

○和井田委員 そうですね。

○船橋会長 それでは、本日の委員会、これにて閉会いたしますが、よろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○船橋会長 長時間ありがとうございました。